

第24回 定例評議員会議事録

財団法人 神奈川県スキー連盟

1. 日 時：平成23年5月28日（土）10:00～12:20
2. 場 所：神奈川県社会福祉会館 4階第1、第2研修室（横浜市神奈川区沢渡4-2）
3. 評議員出席状況：評議員現在数：50名
出席評議員数：30名
書面票決数：9名
欠席評議員数：11名（出欠表添付）
4. 出席理事：（副会長）佐藤 嘉彦、山田 力、片 忠夫
（専務理事）上田 英之
（常務理事）清水 忠、徳本 進、木村 徳善、吉岡 去私
（理事）金子 理人、国島 みどり、高柴 一彦、青木 文明、本田 衛義、
岡田 良平、小池 光、佐々木 生道、森本 珠水、中村 浩人、
大澤 康之、黒川 正孝、伊藤 敏光、吉野 大成、和田 幸一
欠席理事：（会長）河野 太郎
5. 出席監事：井上 敏郎、内海 雄三
6. 出席顧問・参与：野地 澄雄（顧問）、小島 祐嘉（参与）
7. 議長選出：森谷 博幸評議員（厚木市スキー協会）を指名
8. 議事録署名人選出：奥山 覚評議員（横浜スキー協会）、川村 一広評議員（川崎スキー協会）
を選出
9. 書 記：青木 文明理事、中里 健二広報委員を指名
10. 配布資料
 - ① 第24回評議員会資料
 - ② 第24回春季定例評議員会資料正誤表
 - ③ 公益法人移行マスタープラン
11. 議 事
 - 1) 報告事項
 - (1) 一般経過報告
上田英之専務理事より、一般経過報告として4点報告があった。
 - ①東日本大震災への対応
東日本大震災の発生により、3月16日以降のすべての行事について、安全確保の観点から中止の決定をした。その後の県連内の募金活動により、会員及び加盟・所属団体から80万円を超える募金が集まり、県連からの寄付金を合わせた100万円を義援金として神奈川新聞厚生文化事業団に預託した。
 - ②新公益法人への移行
2012年に新公益法人への移行を目指し、アドバイザーの税理士事務所を選定し作業を進めている。今年の12月までには認可申請を行うスケジュールとなっている。

③会員数

毎年200名のペースで会員が減少してきたが、今年度は78名の減少にとどまった。また、指導者の合格者は20名減ったが認定指導員は10名増加している。加盟団体責任者との会合などを開催し、皆さんにお願いしてご協力をいただいた結果に感謝している。

④市町村対抗スキー競技会

ポスト県総体として第62回市町村対抗スキー競技会を開催し、12市1町106名の参加をいただいた。県総体を引き継いで行っている大会であり、また行政の援助を受けることができればと思う。

(2) SAJ報告

山田隆SAJ理事より、次のとおり報告があった。

「バンクーバーオリンピック以降SAJへの助成が大幅に減ってきている。2年前の約10億円から現在は約7億円と、30%の減少は予算編成に大きな影響を与えている。オリンピックでの成績があげられていないことが原因であり、JOCからはB指定の補助である。

現在、認定指導員の制度に関して今後どうするか議論しているところ。神奈川県では認定指導員が増えているが他県ではあまり利用されていないこともある。また、指導員の登録について現在4万5千人いる資格者のうち規約規定どおりだと約1万人が資格喪失し約3万人が資格停止に該当することになる。そうした人たちに戻ってきてほしいと思っている。周りにそうした人がいたら声を掛けてほしい。」

2) 審議事項

(1) 第1号議案

① 平成23年度 執行方針（案）について

上田英之専務理事より、平成23年度 執行方針（案）について、評議員会資料の3ページの提案がされた。

② 平成23年度 総務本部執行方針（案）及び総務本部事業計画（案）について

徳本進総務本部長より、平成23年度 総務本部執行方針（案）及び総務本部事業計画（案）について、評議員会資料4ページの提案がされた。

③ 平成23年度 教育本部執行方針（案）及び教育本部事業計画（案）について

木村徳善教育本部長より、平成23年度 教育本部執行方針（案）及び教育本部事業計画（案）について、評議員会資料5ページから8ページまでの提案がされた。

④ 平成23年度 競技本部執行方針（案）及び競技本部事業計画（案）について

吉岡去私競技本部長より、平成23年度 競技本部執行方針（案）及び競技本部事業計画（案）について、評議員会資料9ページから10ページまでの提案がされた。

(2) 第2号議案

① 平成23年度 予算（案）について

金子理人総務理事より、平成23年度予算（案）について、評議員会資料11ページから19ページまでの提案がされた。

(3) 質疑応答

- ①市川房雄評議員（小田原）から、i 各事業収支について出来れば各行事ともプラスにした方がよいのではないかとこの意見があり、行事によって収入支出がマイナスになっているところとプラスのところの差の理由は何かとの質問があり、

吉岡競技本部長から、i 鹿沢と戸倉の大会はスキー場側に負担していただいている部分が大きく、県選手権についても今年度スキー場との交渉を考えているとの答弁がなされ、木村教育本部長より、今年度実績ベースで予算化しており、支出は現状維持としているとの答弁がされた。上田専務から参加者が減ってきているなかで、事業運営上カット出来ない部分であり、今のサービスを変えないで、その他の行事についても、実行の中で支出を抑えるよう改善していきたいとの答弁がされた。

- ②渡辺一敏評議員（平塚）から、i 認定指導員については神奈川県では人数も増えており、収入の面でも貢献しているので今後も継続すべきではとの意見があり、

山田SAJ理事から、i まだSAJの理事会で決まったことではなく検討中の事項であり、地域指導員という形で残すことなども検討を行っているとの答弁がされた。

- ③杉山和彦評議員（藤沢）から、i 東日本大震災の義援金について案内の仕方はもう少し広く案内した方が良かったのではとの意見と、寄付者の県連ホームページへの掲載方法として、日付順ではなく金額順とするような配慮が要望され、

徳本総務本部長から、i ホームページへの掲載については、最終的に日付順から金額順に掲載することとしたいとの答弁がされた。

- ④松浦哲也評議員（小田原）から、i SAJの会員減、資格者減に関連して、指導員の3年研修会欠席に対する対応について、県連では研修会参加費を前払いしている点との関係についての考え方について質問があり、

上田専務理事から、i 県連としての救済方法は研修会2回の欠席は停止となるがその時点でSAJの規程では会費を払えば復活できる。これまで 南関東ブロックの取り扱いとして、研修会を3回以上欠席した場合、会費はすべて、指導員の分については最大5年間さかのぼって支払うことで復活できるとしていたが、県連として2011年3月9日に「指導員資格停止解除規程」を制定した。研修会費の5年間2万円分を支払うことで再登録を可能とすることになった。併せて、研修会費免除願いがあり、海外出張・出産等により前納分をお返しすることになっており、復活するなら研修会費を払わなくても良いシステムになっているので、そのように対応したいとの答弁がされた。

山田SAJ理事から、SAJでは再来年から新POSシステムにより会員登録を行うことになり、新制度前に出来るだけ復活していただきたいとの答弁がされた。

- ⑤相澤寛評議員（横浜）から、i 何年か前の評議員会で協会が主催する指導員養成講習会を受検資格とし認めてもらいたいとの要望を出した検討結果を知りたいとの質問があり、

上田専務理事から、i 協会長会議でも要望は受けていたが、今のところSAJ規約では

養成講習は県連単位までとしており、今のところ認められないとの答弁がされた。片副会長から2年前の評議員会で県下の協会に意見を聞くことも必要だとし、拡大理事長会議でも意見を聞いてきたが、その当時愛知県でも実施しているとの話もあり、2年前のSAJ執行部ではその可能性があったところだが、現SAJ執行部の考え方は規約どおり養成講習は県連単位までとしており、今後もニーズを聞きながら検討したいとの答弁がされた。

山田SAJ理事からは、検定部の増田部長はだめと言っている。理由は出来る所と出来ない所があり差別があってはいけない。SAKは100名未満なのに何故分散するのか。現状減っているので認めることは出来ないとの答弁がされた。

相澤評議員から、結論が出ているのならば先に報告してもらいたかったとの話があり、子供連れの参加者も多くなってきており、もう一度検討はしてもらいたいとの意見があった。

上田専務理事から、事業の権限をおろすことはやぶさかではないが、規約規定が前提としてあるので非常に難しいところではあり、その前提で検討は続けていきたいとの答弁がされた。

⑥富川貴幸評議員（横浜）から、i 級別テスト3, 4, 5級は基礎スキー技能テスト規程第13条第3項に所属団体長の承認を得て随時開催できるとなっているが、実際は展開していないことについて質問があり、

上田専務理事から、i 手続き上は県連に出していただくことになるとの答弁がされた。富川評議員から、手続き要領説明会で詳細を説明してもらいたいとの要望があった。

質疑に続き、議長から第1号議案及び第2号議案について、一括して承認を得たい旨諮ったところ満場一致で承認された。

3) 特別経過報告

①新公益法人移行経過について

新公益法人移行経過について、徳本総務本部長から資料③に基づき報告があった。

4) その他

①葉山町スキー協会の報告

溝端岳土評議員（葉山町）から葉山町スキー協会の活動について紹介があった。葉山町スキー協会は創立13年、会員30数名の協会であるが、近年は他の協会と同様指導員など有資格者が多くなり、会員の構成が逆ピラミッドになり、協会の活性化を図るためジュニアスキーに取り組むようになった。対象は小学3年生から中学3年生までで、スノーボードは中学生のみが対象。今シーズン全盲の中学生女子の参加申込みがあり、協会でもいろいろと議論したが受け入れて実施することとなった。宿では同室の中学生に補助役員としてサポートしてもらい、グレンデでは講師2名がついて講習を行ったとのこと。講習中の様子について、プロジェクターにビデオ映像を映し説明があった。

②幡野浩志評議員（秦野）から、今年度は電力需要の関係から土日出勤の可能性が高く、手続き要領説明会の資料を先に配布してほしいとの要望があった。

上田専務理事から出来るだけ要望に沿う形にしたいとの答弁がされた。

③佐藤純夫評議員（横浜）から、市町村対抗スキー競技会のアンケートについて、だれ宛にされたものなのか、協会の意向が反映されていないものとなっていることと、競技内容が個人戦なのか団体戦なのか、協会単位では市内在住者とは限らないし、クラブ単位で集めても対象外となってしまう。団体戦としながら個人戦と区別がつかない部分があり、競技ポイントの対象にもなっており、個人戦の部分も入っているので矛盾があるので明確にしたいとの要望があった。

上田専務理事から手続き要領発行前までには内容をまとめたいとの答弁がされた。

以上を以って、本日の議事を終了し、議長解任後、副会長より閉会を宣した。

この議事録が正確であることを証明するため、議事録署名人、下記に署名する。

平成23年 6月17日

議 長

印

議事録署名人

印

議事録署名人

印